

## 第126回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学教育学部附属幼稚園，園長 坂井 聡  
香川大学教育学部附属坂出小学校，校長

子どもの健康ランキングから見えるもの

ユニセフのレポート

昨年、国連児童基金（ユニセフ）が、『レポートカード 16- 子どもたちに影響する世界：先進国 の子どもの幸福度を形作るものは何か』を発表しました。このレポートは、子どもたちの精神的、身体的な健康と、学力・社会的スキルについてランキングしているものです。総合順位を見ると日本は先進 38 カ国中の 20 位になっています。大体先進国の真ん中あたり に位置しているということです。しかし、項目ごとの順位を見てみたらびっくりしました。身体的健康 は 1 位、スキルは 27 位という結果だったのに対し、精神的健康度は 38 カ国中 37 位になっていた からです。このランキングから見えてくるのは、日本の子どもたちは、身体的には健康なのだが、精神的な健康については課題が多いということなのです。

身体的に健康な子どもが多いのは、学校等での健康指導が功を奏し、健康管理ができてい る結果でしょう。給食もあるし、身体検査もあれば視力検査、歯科検診もあつたりする結果だと思 います。これはとても喜ばしいことだと思います。メディアでも健康の問題はよく取り上げられ、健康 問題には多くの人が関心をもっていることも、身体的な健康を支えている要因であると思 います。医療技術が発達しているという点も、高評価に影響を与えているのではないかと思 います。

一方、精神的な健康についてはどうなのでしょう。この結果は、健康な身体に健康な精神は 宿っていないという結果になっているということなのです。レポートでは、「家族からのサポートが より少ない子どもたち、いじめに遭っている子どもたちは、あきらかに、精神的健康がより低い結 果となっている」と報告されているのです。

精神的健康度が低い原因は

しかし、原因はこれだけではないだろうと考えています。校長になって特に感じるのは、学校とい う世界は、行動はみんな同じようにしなければならぬという平均主義と、成績は他の人よりも秀 でるのをよいとする競争主義が共存する矛盾した世界だということです。特別支援教育に代表さ れるように、個人を大切にしなければならないとは言っているのですが、周囲の子どもの行動と比 較して、逸脱していると考えられる行動は、強く修正するという雰囲気が学校にはあるのではない かと思うのです。一方で、成績については、人よりも点が取れたことが評価されるので、個人の結 果が大切にされている世界だということなのです。

この世界に馴染むことができない子供たちは当然、自己肯定感を下げることになります。私が 関わってきた特別な支援が必要な子供は、どの子もこの学校世界への馴染みにくさを口にしてい ました。自己の能力が正当に評価されない世界だと感じるからではないかと思うのです。このよ うに精神的健康の低さは学校教育にも大きな原因があると思うのです。

ユニークでも認められる社会を

特別な支援を必要としている子供たちもいずれ大人になっていきます。何らかの形で社会参加 していくということなのです。現状では、精神的健康の課題は先送りされているように思 います。そして、その負担は社会が担うことになるのです。自己肯定感が低いまま社会参加せざるをえない 状況になっているからです。先日朝礼で児童にこのような話をしました。「この学校は困っていたり悩んでいたりする子供が いたら、特別扱いをする学校です。みんなと同じでないといけないことはありません。校長先生は、担任の先生にそのように伝えてい ます。だから、ずるいとか、不公平だとか言うことはありません。みんなで同じ景色を見ることができるようにと考えてとくべつあつかい s しているから です。」と、いろいろな人がいて、自分はその中の一人であると意識させたいと思います。この子供たちが将来 社会を支える働き手となるから です。「そうなんです。自分はちょっとユニークなんです。でも大丈夫なんです」と自信をもって言うことができるような社会を創ってい きたいと思うからです。

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。